

# アルコール依存症者の セルフスティグマと断酒期間の関連

---

○職員A(作業療法士)1) 職員B(作業療法士)2)

医療法人耕仁会札幌太田病院 1)2)作業療法・音楽療法課

# はじめに

---

## ○スティグマとは

- ・日本語の「差別」や「偏見」などに対応している
- ・「精神疾患など個人のもつ特徴に対して、周囲から否定的な意味づけをされ、不当な扱いを受けること」

例⇒精神疾患に恐怖や不安を感じる

## ○セルフスティグマとは

- ・本人が周囲から「差別」や「偏見」を受けていると感じること

例⇒私は精神疾患があるのでみんなから嫌われるのではないかと

# はじめに

---

○セルフスティグマがあると疾患回復の妨害要因になる

⇒ **社会適応の阻害、治療行動の不遵守、自尊感情の低下**

○セルフスティグマに対する介入

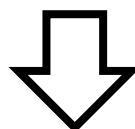
⇒ **自己効力感や治療意欲の向上、地域社会への参加**

# はじめに

---

アルコール依存症の治療では

断酒を続けることによって健常成人と一見変わらない社会生活を送ることが可能ということが報告されている



断酒期間は治療効果を測定するのに大切な指標

質問紙調査と断酒期間の聴取により、アルコール依存症者のセルフスティグマと断酒期間の関連性を分析し、今後の支援方法を検討する

# 方法

---

- 研究デザイン: 質問紙調査及び断酒期間の聴取
- 対象者: アルコール依存症の診断がついたデイケア利用者13名
- 使用尺度: Linkスティグマ尺度(12項目)、合計得点が高い程スティグマが高いとされる
- 分析方法: 尺度の得点と断酒期間の関連や傾向を分析  
先行研究を考慮し、合計得点30点を1つの目安とした

# 方法

---

## Linkスティグマ尺度(12項目)

- 精神的治療を受けたことのある人を見下げたり差別したりする態度を測定する
- 社会的親密さ、知的能力の評価、雇用の受け入れなどについて問われる
- 質問に対して4段階評定(1:全くそう思わない～4:非常にそう思う)を用いて回答を求める

### 実際の質問

「多くの方は、精神病院への入院歴のある人を軽視している」

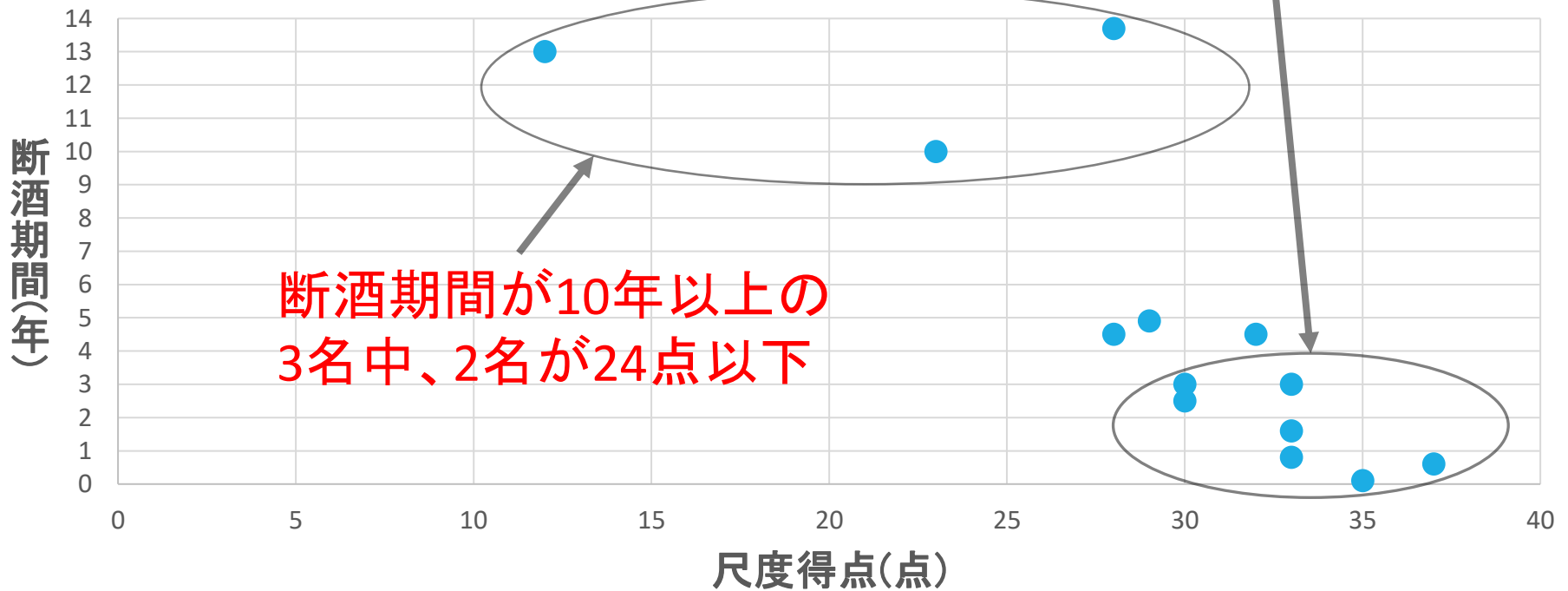
# 結果

---

- 回答者数:13名
- 尺度の平均得点:29.4点
- 得点範囲:12点~37点
- 断酒期間:最長13.7年、最短1ヵ月未満
- 30点以上の得点を示した8名中、7名が断酒期間3年以下
- 断酒期間10年以上の3名中、2名が上限得点(48点)の半分である24点以下

# 結果

## Linkスティグマ尺度



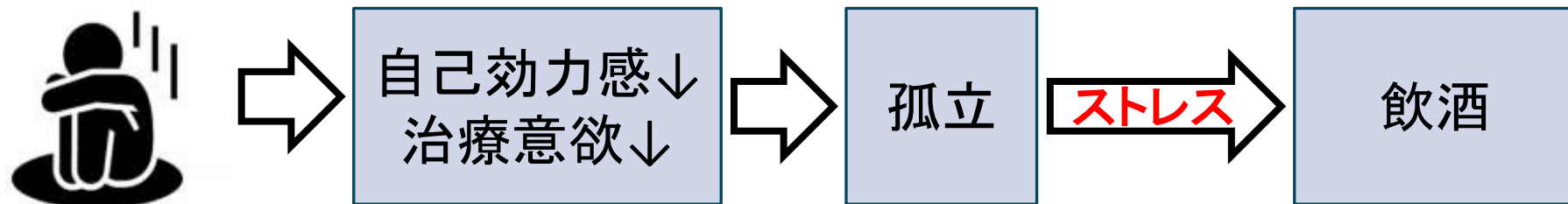
断酒期間が長い人→尺度得点が低い  
断酒期間が短い人→尺度得点が高い



# 考察

---

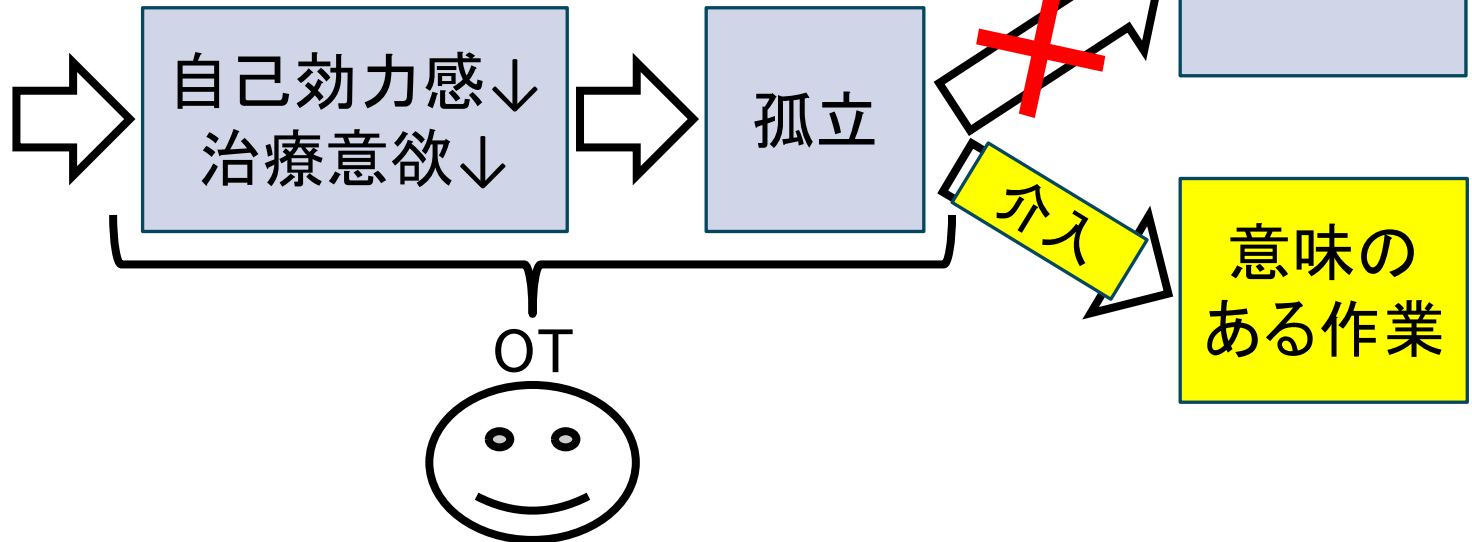
セルフスティグマが高い人



- セルフスティグマの高さから治療意欲、自己効力感が低下
- 他者との繋がりを自ら遮断しコミュニティに参加できず孤立

# 考察(支援方法の検討)

セルフスティグマが高い人



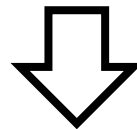
スティグマ軽減に効果的なのは当事者同士の交流  
や成功体験の蓄積ということが報告されている

# 考察(支援方法の検討)

---

作業療法士としてアルコール依存症者同士の  
作業活動、成功体験の提供

自己効力感の向上とコミュニティへの参加を促せる



セルフスティグマの軽減に繋がる

飲酒以外のストレス対処法を確立し、意味のある作業を  
見つけることも長期的な断酒に繋がる

# 本研究の限界

---

- サンプル数が少なく、対象者個人の属性(性差、家族等)が結果に影響を与えた
- 精神症状が対象者の主観に影響を及ぼした
- 断酒期間は自己申告であったので、信頼性が乏しい
- 認知機能の低下等により、質問内容を理解せず回答してしまった方がいることが予測される

ご清聴ありがとうございました